



広島大学病院 ニュース

HIROSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL
MEDICAL-DENTAL LIAISON NEWS

第8号

2006年10月



広島大学病院の理念

わたし達は、国民の健康と福祉の向上のために、
次の理念を掲げています。

患者さま中心の全人的医療を行います。

優れた医療人を育成します。

新しい医療を開発します。



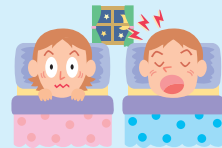
睡眠時無呼吸外来のご紹介



広島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の睡眠時無呼吸外来では、いびき、睡眠時無呼吸候群の診察、治療を行っております。いびきをかく、睡眠中に呼吸が止まるといった直接的な症状から、夜何回も目が覚める、昼間の眠気が強いといった間接的な症状まで幅広く担当しています。最近では鼻アレルギーを中心とした鼻疾患の増加や、肥満、下顎の発育不良といった方の増加に伴い、睡眠時無呼吸症候群の患者さんが増加しています。

睡眠時無呼吸症候群について

睡眠中における呼吸の命令と呼吸の抵抗のバランスが悪いため
10秒以上の呼吸停止や呼吸低下が生じ、
そのため夜間に何度も脳が起こされる病気です。



夜間に目が覚める、昼間の眠気といった症状のほかに、起床時の頭痛・頭重感、性格の変化、知能の低下、幻覚、自閉症、呼吸困難（特に労作時）、不眠症、インポテンツなどの様々な症状が出現します。また徴候としては高血圧、多血症、不整脈、断眠（脳波上）、肺高血圧、肥満、浮腫などが起こります。無治療で長期間過ごした場合には生命にも影響を与える可能性があり正確な診断と適切な治療が必要となります。私たちは外来で可能な簡易型のアプノモニター検査や入院して脳波や心電図も合わせて行うポリソムノグラフィー検査に加えて、ファイバースコープを用いた鼻や咽頭・喉頭といった上気道と呼ばれる空気の通り道の形態や機能の評価を行っています。これらの検査により、睡眠中の呼吸の状態や脳の状態、気道の状態が評価でき、より詳細な診断が可能となり、的確な治療を行うことが可能となっています。

口蓋垂軟口蓋咽頭形成術

手術により過剰な咽頭の粘膜を切除して更には形成外科手術により咽頭の形を整え広げる方法です。広島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、従来の方法に独自の改良を加え、咽頭の機能を保ちながら、より広い気道を確保する手術方法を行っています。

手術前



手術後



お問い合わせ：耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来 TEL 257-5477



眼科のご紹介

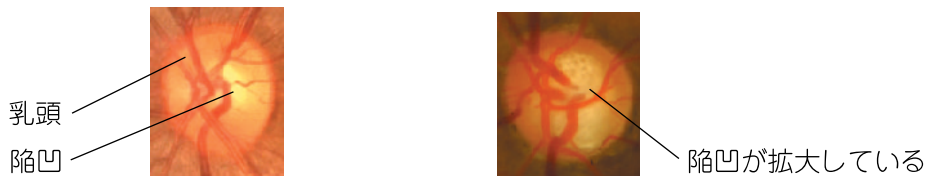
広島大学病院眼科では、緑内障、網膜硝子体疾患、角膜疾患、神経眼科、弱視・斜視の各領域について高度な診療レベルへの標準化を目指し日々診療を行っています。特に緑内障疾患については木内教授の専門領域で、多くの緑内障専門医がおり、専用の検査機器を多数揃え、充実した診療が行えるようにしています。また、難治症例に対する緑内障手術も積極的に行っています。網膜硝子体疾患については黄斑部疾患を含めた種々の疾患の手術をはじめ、近年増加傾向にある加齢黄斑変性症に対する「光線力学的療法」を行う県内有数の施設です。

緑内障ってどんな病気？

緑内障は、視神経（目の神経）に障害が起きる目の病気です。視神経は、目からの情報を脳へ伝える働きをします。視神経が傷ついて障害が起きると、目からの情報を正確に伝えられず、脳で画像をうまく組み立てることができなくなります。緑内障の患者さんは、症状が重くなるまで、このような変化に気がつかないことがあるので要注意です。

<正常な視神経>

<緑内障のひとの視神経>



早期発見・早期治療が大切

多くの場合、自覚症状がない緑内障に対して最も重要なことは早期発見・早期治療です。一度障害された視神経をもとにもどす方法はなく、病気の進行をくい止めることが目標となります。出来るだけ早期に緑内障を発見し、治療を開始することが大切です。

ものが歪んで見えるのは加齢黄斑変性かもしれません

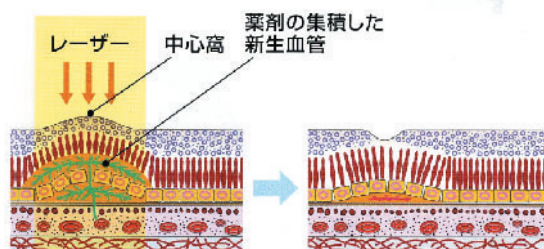
50歳をすぎたら要注意。「ものが歪んで見える」「中心が暗くて見えない」など、見え方に異常を感じているあなたは、加齢黄斑変性かもしれません。



光線力学的療法 (PDT: Photodynamic Therapy)

加齢黄斑変性に対する治療法で、光に反応する薬剤を体内に注射した後に病変部位にレーザーを照射する治療法で、正常な網膜へのダメージを抑えながら、新生血管を退縮させます。継続的に行う治療法で初回治療後は3ヵ月ごとに検査を行い、検査の結果より必要に応じて再度、光線力学的療法を実施します。

治療の概略



(PDT手帳から抜粋)

歯周診療科

広島大学病院歯科の歯周診療科では、**歯周病**や**歯の神経**、**根の疾患**の診察、治療を行っています。これらの病気は口の中の細菌が原因で起こる感染症で、放置しておくとも全身状態に悪影響を及ぼすこともあります。したがって、口の中の細菌感染をコントロールし、これらの疾患を予防・治療することは、全身の健康に寄与するものとなります。当科では、歯周病の治療に**歯周組織再生療法**という手術法を取り入れています。また、特別外来として、口臭の原因を分析し、解決する**口臭外来**も開設しています。

歯周組織再生療法

歯周組織再生療法とは、歯周病で失われた組織をできるだけ元に近い状態に回復させるために行なう手術法です。この手術法の1つで、**骨髄細胞を移植する臨床研究**も行なっています。失われた組織が再生される理想的な手術法ですが、歯周病の進行度によっては、不可能な場合があります。

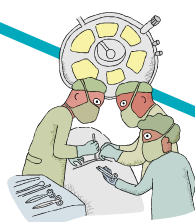
歯周病では、歯の周りに多くの細菌が潜んでおり、歯の周りの組織を破壊していきます。



放置しておくとも、歯を抜かなくてはいけなくなります。また、健康にも悪影響を及ぼします。



ブラッシングや歯石とりで炎症は軽くなりますが、元の状態には戻りません。



歯周組織再生療法で、歯の周りの組織を元に近い状態に戻せる場合もあります。



口臭外来

最近、社会的な背景から口臭を気にして悩んでいる人が増加しています。口臭の原因は、口の中の細菌から心因的なものまで多くのことが考えられます。

口臭外来では、口臭の原因を分析し、解決しています。



歯周診療科外来 **TEL 257-5775**

口腔インプラント診療科

歯が欠けたり，なくなった場合にクラウンや入れ歯などの人工物で補う**補綴（ほてつ）**を行う診療科です。歯の抜けたあごや，こわれた歯を治し，失われた機能や見た目を回復し，残っている歯や歯ぐきを守る治療です。具体的にはクラウン，ブリッジ，部分入れ歯，総入れ歯，インプラント（人工歯根）などによる治療を行います。それぞれの治療には健康保険が使える治療法と自費診療となる治療法がありますので，担当医によくご相談ください。

1. クラウン治療：

歯根の部分を利用して土台をたて，その上に金属やセラミックス（陶器）で作った人工の歯冠（冠）をかぶせます。むし歯が神経まで達していない場合は虫の食っている部分を削り，その上に直接冠をかぶせることになります。



2. ブリッジ治療：

歯が数本なくなった場合，なくなった両脇の歯がしっかりしている時に，両脇の歯を支えとして人工の歯を橋のように架けることをブリッジ治療と言います。



3. 部分入れ歯：

生まれつき歯が少なく隙間が広く開いていたり，むし歯や歯周病，あるいは事故，手術などで歯や骨の一部がなくなった場合，そのなくなったところを補う装置（部分入れ歯）をいれることによって，形態や見た目の不良を回復し，食事やししゃべりやすさを改善します。



4. 総入れ歯：

上の顎または下の顎のすべての歯を失った方のための入れ歯のことです。総入れ歯，あるいは総義歯，全部床義歯と言います。総入れ歯は，歯ぐきを作る材料がレジンと呼ばれるプラスチックの樹脂で出来たもの（健康保険適用）と，チタン等の金属で出来たもの（一部保険からの負担あり）があります。金属の入れ歯は，薄く温度感覚に優れているので，装着感が良好です。また，壊れにくいという特徴もあります。



レジン床義歯



金属床義歯

5. インプラント治療：

人工歯根とも呼ばれ，歯がなくなったところの骨に主にチタンなどの金属を埋め込み，その上に人工の歯を作る方法です。インプラントの埋め込みには外科手術が，また骨としっかりくっつくためには期間が必要です。顎の骨の量が十分にあること，骨の質に問題がないこと，骨粗鬆症や糖尿病などの全身的な問題がないことが前提になります。



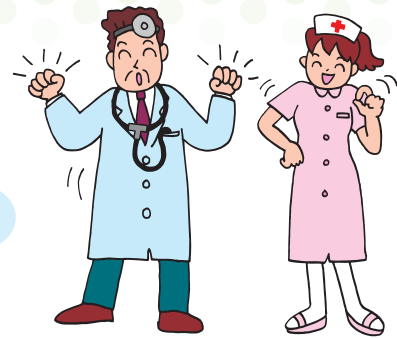
6. その他の治療内容：

あごが痛いときの治療として，口腔外科医と協力の下，スプリントと呼ばれるマウスピースを用いてかみ合わせのチェックと治療を行います。また，睡眠時無呼吸症候群の患者様に耳鼻科からの紹介があった場合，マウスピースを製作します。

口腔インプラント診療科外来 TEL 257-5765

放射線部

放射線部は病院の要と 私たち放射線部職員は考えています。



放射線部は、がんの治療を行う治療部門と画像診断を受け持つ診断部門とから成り立っています。最近導入された装置で、放射線部を紹介したいと思います。

1 診断部門は64列のCT（古いCT装置ではX管球と一体となった検出器が体の周りを1回転して1枚の画像が得られますが、1999年に4列が発明されてから、その倍数の8列、16列、32列、64列といった複数の画像が得られるような装置が次々と開発されています（図1）。）と3.0テスラ（1テスラは1万ガウス）のMRI装置（図2）等の最新医療機器を使用することにより、がん、心臓病、脳疾患などのいわゆる生活習慣病を含めた病気を正確に早期診断します。



図1 3.0T MR

2 放射線治療部門はがん治療の一翼を担っていますが、手術に比べて臓器の形態や機能を温存できるのが特長です。診断装置と同様に治療装置も定位放射線治療、強度変調放射線治療といったがん細胞周囲の正常組織への傷害を抑える3次元放射線治療が普及しています。また小線源を体内に植え込む治療（小線源治療）も行っており、がん制御率を向上し、患者さんの苦痛をより少なくしています。（図3）



図2 64列CT

3 診断部門の1分野にCTや超音波などを使って低侵襲治療を行なうIVR部門があります。例えば出血や悪性腫瘍などに対する塞栓術や、血管奇形や閉塞性動脈硬化症などへの血管形成術など、またドレーナージ、生検、最近話題の骨粗鬆症に対する椎体形成術などを行なう部門です。



図3 6MV LINAC

いずれの部門も医師、看護師、診療放射線技師などが一体となって診療にあたれば高度な医療の提供は不可能です。大学病院が大学病院だけの診療を行うだけでは地域医療に貢献できません。そのため地域の基幹施設が認定施設となるのを手助けするため放射線専門医や指導医、学会認定の技師、看護師を育成できる風土を作るとともに教育機関として認められる必要があります。すでに放射線治療分野においては診療の質と医療事故防止のための安全管理体制の確立にむけて放射線治療品質管理機構及び日本放射線治療専門技師認定機構が発足しています。

がん拠点病院として大学病院は認知されましたが、がん患者がこの10年間で倍増していることから、生物学的効果が高く、線量集中性の優れている粒子線治療装置の導入を希望しています。粒子線治療装置は日本発の装置であり、世界への教育病院としての役割を果たすことが可能と信じています。



がんを抱えていらっしゃる方へ

私たち広島大学病院緩和ケアチームがサポートします



平成18年2月より広島大学病院に緩和ケアチームが発足いたしました。緩和ケアチームでは、がんの診療のために入院治療を受けている患者様とご家族を対象とし、がんに伴うところどころからのさまざまな症状を軽減し、できるだけ苦痛を感じることがないように支援することを目的としております。一昔前には「緩和ケア」というといわゆる終末期医療（ターミナルケア）というイメージがもたれておりました。しかしながら、例えば「がん」とはじめて診断されたときから精神的に動揺することや、治療に伴う痛みや吐き気など不快な症状が比較的早い時期からあり、問題となることもありますので、最近ではこうした病気になられた方では最初から「不快な症状を緩和する」ことが重要視されております。WHOおよび近年の本邦におけるがん医療の指針においても **できるだけ早期から緩和的な視点による治療を行うこと**が推奨されております。したがって、私たちもあらゆる時期においてがんの患者様とご家族のケアに携わらせていただいております。

チームは精神科医師、麻酔・疼痛治療科医師、そしてがん看護専門看護師を主要メンバーとして活動しております。実際には薬剤師やソーシャルワーカー、臨床腫瘍科医師、放射線科医師、リハビリテーション部医師、理学療法士、作業療法士等、あらゆる科の医師やコメディカルスタッフと協力して診療に当たっております。まだ活動を開始して半年あまりであり、チーム自体がまだまだ成長の途上ではございますが、広島県のがん患者のために微力ながら力を尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。



「都道府県がん診療連携拠点病院」 の指定を受けました

この度、本院を含め県内の10病院が「がん診療連携拠点病院」の指定を受け、その中でも本院は「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けたため、地域の医療機関と連携したがん治療の推進はもとより、がん医療の相談、医療従事者の研修等より一段と大きな役割を担います。

*本院以外のがん拠点病院

県立広島病院，広島市立広島市民病院，広島赤十字・原爆病院，
広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院，国立病院機構呉医療センター，
国立病院機構東広島医療センター，広島県厚生農業協同組合連合会尾道総合病院，
福山市市民病院，三次市立三次中央病院

セカンドオピニオン外来を開設いたしました

本院は、平成18年10月1日よりセカンドオピニオン外来を開設いたしました。

完全予約制で、申込みは地域連携室が窓口となります。

現在、病院や診療所で治療を受けている診療内容や治療法に関して、本院の専門担当医の判断・意見を提供し、ご自身の治療に際して参考にさせていただくものです。

ただし、次のような目的での申込みは応じられません。

- 医療訴訟に関すること
- 主治医に対する不満
- 転院希望
- 医療事故に関すること
- 診療費用に関すること

詳細は、本院のホームページ（<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>）のセカンドオピニオン外来の項目をごらんください。



広島大学病院 地域連携室 TEL 082-257-5079



広島大学病院のホームページのご紹介

■ご意見や感想を下記へお願いいたします。

広島大学病院 広報委員会（経営企画室広報担当）

〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号 Tel 082-257-5555 Fax 082-257-5074

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/index.html>

分かりやすく見やすいページづくり
を心がけていこうと思いますので、
引き続きご愛顧のほど、
よろしく願います。